

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：抜里葛籠自治会

開催場所：川根地域交流センター

開催日時：平成 28 年 9 月 30 日（金）19 時 00 分～20 時 45 分

参加者：自治会側【地域住民の方 32 人】

市側【染谷市長、鈴木議会事務局長、北川産業観光部長、三浦秘書課長、松本川根地域総合課係長、山内協働推進課係長】

内 容

① 谷澤自治会長あいさつ

- ・市長には、超過密スケジュールの中、お越しいただきありがとうございます。
- ・限られた時間なので、あまり多くの質問や提案などはできないかもしれないが、一つ一つの話を実感させながら、話を伺っていききたい。
- ・自治会長になってから、何回か市長さんと話をさせていただいた中で、市長さんはこの川根地区を何とかしなければならぬということで、川根のことをすごく思ってくれている。それに甘えてはいけませんが、川根地区のみなさんも、いろいろな提案を出して、それが地元の繁栄につながるようにしていかなければならないと思う。
- ・今日は、お願い事というよりも、提案という形で、前向きな話を進めていききたい。
- ・川根は 3 月 31 日現在で世帯数が 1,796 世帯、男女合わせて 5,078 人、高齢化率が 41%となっている。
- ・皆さんが活躍できるような仕事を提案していきたい。

② 市長からの市政報告

■はじめに

- ・川根地区は 4 自治会ある中で、最初に身成に伺い、笹間に伺い、今日、ここ（抜里葛籠）に伺って、来月、家山に伺う。
- ・今までは『市長と語ろう会』ということでやってきたが、呼んでいただくところと呼んでいただけないところがあったため、この車座トークは、市内全ての 68 自治会をまわるということ実施している。
- ・また、今年と来年の 2 年をかけて次の総合計画（H30～37）の策定作業を行っているが、この他にも、国土利用計画島田市計画や中心市街地活性化基本計画、公共施設再配置計画などの策定もしていく必要があることから、各地域の課題、特色や人材、さらにはどのような取り組みをしているのかを耳で聴き、肌で感じて、それを市政に反映したいということでまわっている。

■抜里葛籠自治会の人口、世帯について

・抜里葛籠自治会の8月31日現在の世帯数は300世帯、人口は928人で、高齢者人口（65歳以上）は382人、高齢化率は41.2%となっている。市の平均が29.4%、川根全体で41%ということなので、この抜里葛籠は、川根地区においては平均となっている。15歳以下の人口は88人で人口に占める割合は9.5%となっている。市の平均は13.8%なので子どもの数が少し少ない。

■川根地域への市の取り組みについて

- ・9月の補正予算に、この北部地域への光ファイバー網の整備費として1億8,000万円を計上している。29年度の事業実施となる。
- ・市内の世帯数37,500世帯あるが、3,000世帯に光ファイバーを整備することが目標。
- ・川根温泉のメタンガスの利活用について、当初予算で約1億8,000万円を計上して発電施設を整備する。28年度中に、空気中に放出しているメタンガスを使った発電装置をつけるというもので、川根温泉ホテルの年間電力使用量の約6割を賄える。これは、鉱山法の改正があったため、小規模開発が認められるようになり、全国でも初めての事例となるため、全国から視察が相次ぐかもしれない。
- ・島田は県内で一番再生可能エネルギーを使っている。今でも、3割をまかなえる状況である。

■地域の抱える課題等について

- ・島田に限らず、日本中で今、一番課題となっていることは人口減少。
- ・子どもが産まれる数が減り始めたのは1975年からであり、すでに40年経っている。あと30年くらいは、人口が増えていかない。
- ・子どもを産める女性の数が減ってしまっている。合計特殊出生率が上がっても、産まれる子どもの数が急激に増える時代ではない。
- ・今までは右肩上がりの時代だった。給料も上がるし、土地の値段も上がるし、明日は今日より良くなるという時代には、税金も増えていったので、将来を見込んで、借金してでもいろいろなものを造ってきた。どんどん拡大して、量的に増えていった社会があった。
- ・今は、いかに集約していくかという時代になった。コンパクトアンドネットワークといて、各地域に拠点となる地域をつくり、それを交通網で繋いでいこうというような考え方が出てきている。
- ・国も予算が無くなってきて、新しい道路等の補助金がほとんどつかない。今から約15年前には、1年間の道路予算だけで16兆円を超えていたが、最近では5兆円ちょっとしか予算がつかない。
- ・その頃は、県の補助金も165億円を超えていたものが、今は45~46億円ということで、7割カットとなっている。
- ・道路も、橋も、公共施設も、昭和40年代の終わりから昭和50年代頃に急激に造られていたため、いっぺんに老朽化していく時代になる。国は、いっぺんに老朽化するのでは、新しいものを造ることが困難になるので、少しでも長く使えるように、今ある施設を長寿命化して、いかに長く使っていくかという考えになっている。駿遠橋がその例であり、耐震化と拡幅を実施した。

- ・国土交通省の予算は、新しいものを造る予算と長寿命化する予算は6：4であるが、そのうち、5：5になると思う。
- ・今後、起債や投資しなければいけないものには投資するが、これからは賢く使うということが大事。
- ・これまでは、行政に任せておけば何とかなるという時代だったが、行政がやれることには限りがある。行政がやらなければいけないことはしっかりやるが、高齢者への地域の見守りなど、行政だけではできないことがたくさんある。そういったことを、地域の皆さんの自助努力の中で、自分たちの地域で解決していただけるような、そういった社会をつくっていかないと、豊かに、同じところに安心して暮らしていくのが難しくなっていく。地域のアイデンティティは、皆さん方一人ひとりが地域に関わって成り立ってきていると思う。
- ・地域の助け合いの事例として、ある地域では、500円の券などを活用して、地域の人達で助け合う生活支援のサービスを行っていく計画がある。元気な高齢者はサービスを提供し、たとえ500円でも収入になる。
- ・高齢者が、公民館で放課後児童クラブを行っているところもある。
- ・放課後児童クラブが学校になく、他の学校の放課後児童クラブへ通いたい子どもたちを、地元の方たちがボランティアとして順番で送ってくれているところもある。
- ・コミバスの路線が足りなくて、買い物や通院ができない、いわゆる交通弱者対策として、車をボランティアで走らせている地域もある。そのための経費（ガソリン代等）については、市から支援している。
- ・こういった動きが出てきている地域は、自分たちで何とかしようという気持ちがすごく強い。
- ・島田市は都市経営する会社であり、究極のサービス業であり、顧客は市民の皆さんということ、いつも職員には話をしている。行政の役割はしっかり果たしていかなければならないが、地域づくりについては、地域の皆様と一緒に進めていかなければならないと思っている。
- ・これからの行政の形は、昭和の時代や20世紀型とは随分変わってきているということ、是非、皆さんに御理解いただきたい。

■川根地域のまちづくりについて

- ・川根地域には、小学校の建て替え、温泉ホテルの整備など、ハード整備はできてきているので、ソフト面での事業の促進を図ることによって、交流人口が増えると思う。
- ・島田の奥座敷であるこの川根地域について考えていることは、川根地域には人材が豊富であるので、ソフト事業について、いくつか根付かせる種まきをさせていただきながら、地域の方たちがそれを回していけるような、また、外から人を呼び込んで地域にお金を落としてもらおう仕組みについて、運営を地域の皆さんにお願いできないかと考えている。
- ・川根地域には、健康長寿の方が多く、リタイアしてもしろいろな技術や知識を持っている方が多い。そういう人たちが大勢いる中で、自分たちがやれることを出し合ったら、いろいろなことができるのではないかと思う。
- ・抜里駅のトイレの整備について予算化した。今年度中に観光トイレを整備させていただく。駅舎はレトロでも良いが、人に来てもらう場所にするために

は、トイレは新しい方が良い。

・パラグライダーについて、上空から見る景色が最高と聞いているので、何とかもう1箇所をとということで、高取山にどうかと考えている。今飛んでいる場所にも、飛びやすくなるように整備をさせていただき、高取山の上のほうは木を伐採して、飛べるかどうか検証していき、川根地域にたくさんのパラグライダーが飛ぶようにしたい。できれば、観光用のタンデムも飛ぶようになればと思う。こういったものも、人を呼び込むための事業の一つである。

・こうした事業によって、パラグライダースクールなどの民間が進出して来るかもしれない。そこに可能性があれば、行政が頼まなくても、民間はどんどん進出して来る。このような投資を呼び込む最初の仕掛けができたらと考えている。

・鶴山の森林公園のところに使える施設がある中で、受け皿があれば、キャンプ場を造っても良いのではと考えている。行政が主導で整備しても、地域振興にはつながっていかない。できれば、川根の人達で回してもらえればと思う。

・川根地域には、パラグライダー、ホテル、温泉、コテージ、トーマス、蛍、川遊びなど、すごくたくさんのこの地域の資源があり、それを生かすことができる。1年を通してたくさんのイベントがあるのもこの川根地域である。

・川根の中には4つの自治会があり、それぞれに地域の特色があるが、川根全体で、この資源を使っていただくことを考えて頂きたい。

・キャンプ場は、受け皿となるところが主になって進めていただく必要があるが、川根全体に潤いが届くように、囲い込まないでほしい。

・受け皿が早い時期にできるならば、まずは木を伐採する予算を上げて行きたい。伐採は冬場にしかできない。この冬に伐採しないと、今度は来年の冬になるので、できるだけ早く受け皿となる組織をつくってほしい。

・キャンプ場を造るにあたり、入口が狭いことや、下まで車で行けないなど、課題もある。

・キャンプ場について、単なるキャンプ場ではなく、地域の特色を上手に入れて、うまくいっているところもある。

・ここの地域でしかできないことを資源として体験させてあげることができれば、単なるキャンプ場ではなく、広がりができ、お金もいただくことができる。

・市としてはキャンプ場として使うことを想定し、まずは上の方からの伐採から始まって、下の方の伐採、不要な木造遊具の撤去、備品の購入などの初期投資については、お手伝いができるかもしれないが、それをまわしていく母体がしっかりしていないとつながっていかない。

・最初の1年、2年が大事。こんなに地域資源があるキャンプ場は他にない。皆さんの力を結集して受け皿をつくっていただき、川根全体が潤うようお願いしたい。

・パラグライダー、キャンプ場などにより、この地域に人が入って来て、また来たいといったつながりが、ここに住みたいという思いにつながっていけば、移住定住にもつながっていく。

・地域おこし協力隊が2人入っているが、移住した人の目線で川根の良さを発信してくれている。今年の4～6月の間の統計では、島田市への移住者は県内で2番目であり、今後も移住の申込みが入ってきている。

・東京の有楽町に「ふるさと回帰センター」があり、各都道府県のブースがあって、東京へ行くたびにそこで島田の宣伝をしているが、最近では、ぜひ「島

田に」と訪ねてきてくれる人もいる。そこは、移住定住の相談に加え、横にはハローワークもあり、仕事も同時に探すことができる。

- ・川根からは若い人に出て行ってもらいたくない。でも、川根には、家が建てられる土地がたくさんあるのにアパートがないし、貸してくれる土地もない。
- ・場所があればここに住みたいという若い人達もいる。若い人達の希望が叶えられるように、ぜひ不動産が動くような川根にしていきたい。
- ・「ちゃいんど」という素晴らしい子育て支援住宅ができた。でも、子どもが大きくなったら、出て行かなくてはならない。出て行くときの条件として、最初は川根に家を建てていただくこととなっていた。しかし、川根には家を建てる場所がない。これは、川根の大きな課題だと思っている。

■市民会館の取り壊しについて

- ・市民会館の取り壊しについて、今は原型がほとんどなくなっており、瓦礫等を搬出している状況である。
- ・今年度中にはイベント広場、駐車場、中心市街地の災害時の避難場所となる予定。
- ・市民会館の建設の要望をたくさんいただいている。
- ・島田市内に、約 600 席のホールが、茶里夢 21、夢づくり会館、おおると 3 施設あり、この 3 施設を使いながら市民会館を造るかどうかということについては、市役所を建替えるときに同時に考えて行きたいと考えている。
- ・閉鎖する前の市民会館については、年間の稼働率がこれまでの 5 年間の平均で、本番で 30 日、練習を入れても 50 日程しかホールが使われていない。
- ・このような稼働率であっても、市民会館を造るとなれば、70 億～80 億がかかることとなる。
- ・単独で新しく造るのか、複合施設として造るのか、広域で使うのかということなど、公共施設についても、これまでにはない発想をもっていかなければならない時代になった。川根小学校に図書館を併設したことも、そういった発想によるもの。
- ・島田市では 276 の公共施設があり、そこに 663 棟の建物がある。これらを、今後 40 年間維持していこうとすると、維持管理費が 2,515 億円かかるという試算となる。年間ベースにすると、維持管理費が 1 年間で 63 億円かかるということになる。今は 1 年間に 36 億円かけている。
- ・今後、人口が減り、高齢者が増え、高齢者のための医療、介護、福祉、子育て支援なども大事であり、たくさんのお金がかかるというときに、施設の維持管理に 1 年間で 63 億円をかけていけるかという、とても難しくなっていく。
- ・これからは、10 年間ごと、パーセンテージを決めて公共施設を統合していかなければならない。また、公共施設に、新たな付加価値を付けていかなければならない。
- ・付加価値の一つとして、六合及び初倉公民館に正規の係長級の職員を配置した。公民館は社会教育施設として使っていたが、その公民館を地域づくりの拠点とするために職員を配置し、それぞれ 3 年間どっぷりと地域に入り、人脈を得て、情報を得て、地域の課題を把握し、地域課題の解決のために配置した。
- ・支所は社会教育施設ではないが、事務の手続き窓口としてだけではなく、もっと地域づくりの拠点にしていかなければならない。
- ・それぞれの施設については、市民の皆様の使いやすい施設にしていかなければならないので、施設の活用の仕方について、皆様に御提案をいただきたい

と思っている。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1	<p>■にぎわい交流拠点について</p> <p>・新東名の島田金谷 IC 付近の大型プロジェクトが発表されたが、その後の経過は？</p>	<p>●</p> <p>・NEXCO 中日本、大井川鐵道、JA 大井川、島田市の4者が連携し、新東名高速道路島田金谷 IC 周辺に、地域の特産品を集めた販売所や、カフェやレストランなどが入る施設を建設する予定。焼津からは魚を売る施設も入ってくる。売り場面積が今のところ1,400㎡ということで、日本一となる。大鉄は新駅建設も検討している。また、市は、新東名の下に、国の占用許可をとって、約1,000台弱の駐車場を造る予定となっている。</p> <p>・基本計画の内容については、11月から12月ごろにはメディア向けに発表できる段階になっている。</p> <p>・奥大井につながる観光の拠点であり、大井川流域の農産品をここに集めて売る。</p> <p>・再来年の春には着工の計画となっている。順調に計画は進んでいる。</p>
2	<p>■地蔵峠について</p> <p>・川根は島田の奥座敷ということで気にかけていただいているが、そういった拠点（にぎわい交流拠点）ができて、大型バスが川根に来るためには地蔵峠の道が悪い。国道473号線の改修に力を入れていただきたい。地元としても、陳情等しなければならないと思うが。</p>	<p>●</p> <p>・国道473号線の拡幅については、毎回、国交省に要望している。この川根地域について、整備か簡単な道路は整備が済んでいる。整備に多額の経費が掛かるところばかり（整備が）残っている。</p> <p>・川根温泉などを見ても、バスの台数が減っているが、その理由は、東京から一人の運転手で運転することができる往復500kmの範囲が、ちょうど島田金谷 IC 周辺までであり、川根まででは、500kmを超えてしまう。そういう意味でも、島田金谷 IC のところでバスを降りてもらい、大鉄で奥に入ってもらいたい。</p> <p>・NEXCO に、例えば名古屋から東京へ行く途中、島田金谷 IC で降りても、降りずに行った場合と同じ料金になるようにしてもらえないかということ</p>

		<p>をお願いしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大鉄には、井川線も含め、もっと観光につなげてもらえればと思っている。 ・SLに乗ってきたお客さんが降りたらバスに乗ってそのまま帰ってしまうのではもったいない。家山駅周辺に滞在して頂ける時間が長くなる仕掛けをみんなでつくることができればと思う。しかし、行政が仕掛けても薄っぺらいものになってしまう。地元の人がかかわっていけば、そのあとの繋がりができるし、継続が生まれるし、子どもたちを巻き込んでいくことができる。
3-1	<p>■鶺山森林公園の整備及びパラグライダー体験について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月12日に文化センターで開催された「まちづくりフォーラム」の席上、市長さんから御提案いただいた鶺山森林公園をキャンプ場として活用する件について、ぜひとも実現をお願いしたい。 ・自治会内部において、鶺山森林公園がこのままではほとんど活用されず、事務所やトイレなどの施設が朽ち果ててしまうのではないかと心配する声があった。 ・そんな中、2年ほど前にキャンプ場にできないだろうかとの意見が出て、地元有志何人かで現場を踏査し検討したことがありましたが、なかなか次の一歩を踏み出せないでいた。 ・そのような折に市長さんから大変ありがたい御提案をいただき、さっそく地元自治会で、キャンプ場開設に向けて協力いただける方を募ったところ、十数名の方から応募があった。 ・鶺山森林公園は、川根地域の宝物でもあるし、島田市全体の宝でもある。 ・抜里葛籠自治会はNPOまちづくり川根の会の会員でもあり、ほかの自治会も会員であるので、自治会から話をさせていただいて、組織化を図っていき、進めることができるのではないかと考えているので、市にも 	<ul style="list-style-type: none"> ● ・鶺山森林公園には小規模授産所があり、その施設は閉鎖しているが、県の補助金がつぎ込まれているため、他の用途に使うとよいか県に確かめなければならない。その確認について、8月末に他の用途に使用しても構わないという話をいただいた。したがって、そこを管理棟として使用することは問題ない。 ・今の話（パラグライダー体験の場所）は初めて聞いたことなので、また場所も見せていただきながら考えたい。

	<p>協力をお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パラグライダーの体験について、葛籠のグラウンドと河原の高低差に4～5m足すと、子どもや乗ったことが無い方が体験できる場所ができそうだと聞いた。そうすれば、キャンプ場と絡めて、いろいろな体験ができることとなるので、そのあたりを少し検討いただければと思う。 	
3-2	<p>■鵜山森林公園の整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抜里葛籠自治会、NPO まちづくり川根の会が窓口になって、観光課にいろいろなアドバイスを受け、キャンプ場の開設委員会をつくり、有識者と意見交換しながら一つの形を作ったので、市長には折を見てまた見ていただきたい。 	<p>● (特に回答なし)</p>
4	<p>■蛍に関する事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この蛍をなんとか見ていただきたい。子どもたちに来ていただければ大人にも来ていただける。蛍がいれば、あそこに行ってみようかということになる。(蛍に関する事業に対して) 市からの援助や宣伝等していただければありがたい。 	<p>●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほたるの里をつくるという事で一生懸命やっていたという事でありがたい。掛川にも蛍の有名などころがあり、普段は真っ暗な田んぼだが、蛍の季節になると車がいっぱい停まって人がいっぱいいる。そこでやっていることは、100円を寄附してもらって、(昔はハガキ1枚50円だった) 50円のハガキに自分の住所を書いてもらい、来年の見頃が近くなるとそのハガキが届く。残りの50円は蛍の餌代。人が大勢来るので、屋台が出たりするなど、人が集まるところにはいろいろなものが集まってくる。 ・まちづくり支援事業交付金について、以前は1団体に対して1回のみ10万円を出していたが、団体の育成をしたいということで、最大6年間総額で180万円まで出すことができるようになった。プレゼンをやっていただく必要があり、審査もあるが、成果を発表して、次年度もまたやるかどうかということになるが、利用していただくこともできるかもしれない。
5	<p>■お茶カフェについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抜里の資産を利用したウォーキングラリーを含めたお茶カフェができればという提案をしたい。抜里には、昔の苗字が無い頃から、屋号制度 	<p>●</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すごくうれしい提案だと思う。私の祖母の家にも屋号があって、みんな屋号で呼び合っていた。屋号めぐりツアーや、縁側でお茶を飲ませていた

	<p>が根付いている。屋号めぐりのツアーや、大きな家では軽食や川根茶の提供などの提案をしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SL の関係で撮影に来る方や、抜里駅を見に来る方など、ツアーで来る方が増えている。また、お茶も機械化が進み、おじいさんやおばあさんの出番がないような中で、お茶の時期にもお客さんを呼び込む利点が出てきたので、こういった提案を通して、抜里に遊びに来てもらい、抜里を好きになってもらいたい。 	<p>だくことなどについて、こんなに魅力的なことではないのでは。こういったものは、ここにしかない観光資源なので、それを生かせばよいと思う。これを誰がやるかということについて、みなさんによる仕掛けが欲しい。行政がお手伝いできることは、それをうまくメディアにのせる事。ぜひ、みなさんに自主的に動き出していただき、そのお手伝いはさせていただきます。</p>
6	<p>■コミバスについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民病院にバスで行きたい。うちの町内会は 80 歳以上が実に多い。長寿の町内会であり、それは誇りに思っているが、市民病院へ行くことについて困っている。免許証も返納しなければならないという歳になってきているので、何とか定期的な運行ができないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ・路線の見直しは再来年度になるかもしれないが、来年度、もう少し時間帯などの調整をしたいと思っている。できるだけ家山駅に入る便を増やせないかということを検討している。
7	<p>■農作物への鳥獣被害について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農作物に対して、猿や鹿、猪などの被害が非常に多い。電気柵でも効果が無い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ・農作物への被害について、電気柵の補助額を 2 万円から 5 万円に上げたので、使ってもらいたいと思っているが、効果がないという困ってしまう。 ・例えば、猪などでは、猟期が 11 月から 2 月なので、それ以外の時に捕獲していただける方には 1 頭あたり 17,000 円の補助金を出している。 ・鳥獣被害は、今は各自治体任せになっている。猪は住民票を持っていない。森町や藤枝から（猪が）来るかもしれないが、捕まったのがたまたまここだから島田がお金を払うこととなる。このことについては、鳥獣被害に対して、もう少し県の支援があっても良いのではないかと思います。
8	<p>■島田市緑茶化計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島田市緑茶化計画の内容についてあまりわからない。タオルなどをつくったということも聞いているが、それはどういうものを対象に利用できるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ・島田市緑茶化計画にちなんで、緑茶化計画のロゴマークを入れた物品を製作してもらえば補助が出る。これは広報課が担当している。 ・島田市緑茶化計画は、世界に向けては売れるお茶を、国内に向けては、島田がどれほど緑茶にこだわる町なのか、わが町が緑茶の町だということ

		<p>を全国に発信する中で、島田市民が緑茶を通して、わが町が緑茶の町だということについて誇りを持っていただき、それが全国からお客さんに来ていただくきっかけにもしていきたい。プロモーションビデオもつくったが、例えば、蛇口をひねるとお茶が出る水道があるとか、旅先に自分のお茶葉を持っていきますよとか、いろいろなエピソードを添えながら、お茶への拘りというものをまず発信していこうというもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民が、お茶の町、緑茶の町島田という特徴を、わが町の誇りにつなげ、特色にしていきたい。 ・今日は議会の最終日だったが、議場に入る時は、私も緑の服を着て、部長たちも緑茶化のネクタイをしている。 ・島田発のブランド茶を売り出そうとしている。都会の人から見ると、茶壺がおしゃれだということなので、それにロゴマークをつけて、4種類をつくって売り出そうと思っている。
9	<p>■高校生の通学について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生の通学について困っている。時間がかかる。電車を利用するにあたり、良い時間帯にできないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ・大鉄の使いやすい時間帯や便数といったことについては、大鉄は観光鉄道として伸びていきたいということは聞いているが、観光鉄道としての儲けを、ぜひとも公共交通として増便につなげていただきたいということで、いつも話をしている。
10	<p>■子どもへの助成について</p> <p>子どもを産む若い人がいなくなった。産むのにもお金がかかる。特に3人目の子供に対しては、もう少し助成をしていただければ、もっと楽に子育てができるのではないかと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ・子どもを産むのにお金がかかるのは確か。島田市では、妊婦健診に対して助成している。また、子どもを産み育てやすいように、赤ちゃんが産まれたら保健師が訪問し、また、妊娠中や出産後には保育士（育児サポーター）を派遣するなど、手厚く事業を実施している。保育所も、3人目から手厚い助成があったと思うが、これについては調べて後日回答する。 <p>【検討事項1】</p>
11	<p>■五輪菩薩について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抜里には子安観音と五輪菩薩がある。毎年、9月1日に五輪菩薩の祭 	<ul style="list-style-type: none"> ● ・例えば、金谷の石畳にすべらず地藏があり、上手にメディアにのせて宣

	<p>があるが、今年の祭に静岡新聞と第一テレビの取材があり、静岡新聞にも五輪菩薩の話が出ていた。その後、世間の人が、五輪さんについて尋ねてくる人が多くなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五輪菩薩は勝負の神様ということで信仰がある。勝負の神様にちなんで、4年後に東京オリンピック・パラリンピックがあり、五輪ということで語呂も良いので、これから、ここを世間の人に知ってもらい、勝負事のお参りに来ていただけるようになれば良いと考えている。 ・五輪菩薩の入り口に資材倉庫があるので、それを利用して、五輪峠茶屋という憩いの場所をつくらなければならない PR できるのではないかと思う。 ・ウォーキングで屋号めぐりをしながら、(五輪菩薩を含めた) コースをつくることができればよいと思う。場所も、木を切れば SL が見えたり、写真を撮るためのロケーションがよいので、そこを利用していただきながら、世間に発信していきたい。このことについて、行政にも後押ししていただければと思うので、真剣に相談にのっていただきたい。 	<p>伝した結果、今では受験シーズンにもものすごくたくさんの方が訪れるようになった。間伐材でお守りをつくったりもしている。こういった、ちょっとしたアイデアでうまくやっているとと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌をつくったり、チラシをつくったりするよりも、はるかに PR 効果が高いのは、どのように新聞やテレビなどのニュースにのせるかが大事。 ・先日、鬻祭があったが、2月から3月頃に中日新聞に島田の鬻祭りの記事が載ったのを見て、それを覚えていて9月の鬻祭りにわざわざ来てくれた人がいて、島田のファンになって帰って行った。きっかけは新聞記事だった。 ・川根温泉はメディアに発信する仕掛けを上手につくっている。 ・五輪菩薩をいかに発信していくかということが大切だと思う。
12	<p>■地域と行政のかかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川根支所については、地域住民の立場に立っていただき、感謝している。 ・川根地区は地域振興の奥座敷ということで、当地区の更なる地域振興、島田市のさらなる一体化ということから、川根地域総合課の地域総合係がある。金谷南地域総合課、金谷北地域総合課、川根地域総合課と、それぞれ特色があるが、中山間地域の振興を図るための係を設置して頂ければという要望。 ・川根地域は過疎地域に指定されており、過疎地域等支援事業が行われている。 ・行政任せではなく、自助・共助の考えから、私たちに何ができるかという計画を出してほしいということで、それを皆様に報告して、推進し 	<ul style="list-style-type: none"> ● 川根の人たちは危機感があるからいろいろなことができるし、変わっていきける。伊久身地区は、過疎地域の指定も受けておらず、人口も減っていき、中山間地で大きな問題を抱えている。川根よりももっと厳しい状況ではないかと思う。過疎計画が作れない、過疎債も使えない。合併前、中山間地という意味では、伊久身が島田の奥座敷だった。新しい島田市では、いろいろなことについて川根地域に目が向いている。中山間地域の振興を図るため、地域おこし協力隊を川根に入れて、良い活動をしてきているので、今後は伊久身にも入れる予定。中山間地域の振興を図るということでは、島田全体として見ていくのが必要ではないかと思う。 ・川根地域総合課について、中山間地域の振興を図る部署の設置ということについては、ここだけではなく、市内全域を通してみていくことも必要

<p>ていこうというところ。</p> <ul style="list-style-type: none">・過疎地域等集落ネットワーク形成支援事業についても、地域づくり課へ話をした。この地域が生き延びるために、過疎地域の振興について、中山間地域振興係という新しいポジションを設けていただきたい。	<p>ではないかと思う。新たに部署をつくるのは難しいかもしれないが、川根支所は、もっと地域づくりの拠点になっていかなければならないという問題意識を持っているし、住民のみなさんはそういう拠点を求めている。職員が意識を変えていかなければと思っている。</p>
---	---

※ 回答は全て市長から回答した。

④当日の様子



⑤検討事項に対する対応（報告）

質疑応答番号 検討事項番号	検討内容（市長の発言）	市からの回答（対応状況）
10 検討事項 1	<p>●</p> <p>・子どもを産むのにお金がかかるのは確か。島田市では、妊婦健診に対して助成している。また、子どもを産み育てやすいように、赤ちゃんが産まれたら保健師が訪問し、また、妊娠中や出産後には保育士（育児サポーター）を派遣するなど、手厚く事業を実施している。保育所も、3人目から手厚い助成があったと思うが、これについては調べて後日回答する。</p> <p>【検討事項 1】</p>	<p>■</p> <p>・年収 360 万円未満相当の世帯については、兄弟の年齢に関わらず、保育所の保育料については第 2 子は半額、第 3 子は無償化しています。年収 360 万円以上の世帯については、保育所に同時に 3 人入園の場合のみ 3 人目が無償化となります。（2 人同時入園の場合、第 2 子は半額）</p>